

第18回 NCGM

国際感染症フォーラム

The 18th NCGM International Infectious Diseases Forum

開催日程

2025年2月6日(木)

15:00-17:30

プレゼンテーション形式

ハイブリッド

(会場[定員100名]+ウェビナー)

会場：ベルサール西新宿1階ホール

(東京都新宿区西新宿4-15-3 住友不動産西新宿ビル3号館)

言語

日本語 / 英語 (同時通訳)

会費
参加費
無料*

*要事前申込

オンライン申込みはこちら



オンラインからお申込みができない場合は、
NCGM 国際感染症フォーラム事務局までご連絡
ください。



テーマ

新興・輸入感染症

—ARISE ネットワークにおける新たな臨床研究への挑戦—

新興・輸入感染症は次のパンデミックともなり得るもので、国内外の関心が高い感染症です。

2025年4月に国立国際医療研究センター(NCGM)は国立感染症研究所と合併し、国立健康危機管理研究機構(JIHS)としてスタートしますが、JIHSとしてこれらの感染症にどのように対応していくのか、特にNCGMが設立したアジアのAROネットワークであるARISE(ARO alliance for Southeast and East Asia)をどのように活用していくかを紹介します。

さらに、新興・輸入感染症の中でも、ARISE域内で近年特に問題となっているエムポックス、デング熱ならびにインフルエンザに着目し、国内外の専門家より各国の動向、研究、治療の最前線の発表と討論を行っていただきます。

プログラム

開会挨拶 國土 典宏(国立国際医療研究センター)

座長：杉浦 互(国立国際医療研究センター 臨床研究センター)
大曲 貴夫(国立国際医療研究センター 国際感染症センター)

1. JIHS の活動

講演1：「新興感染症へのJIHSの対応、ARISEの活動に対する期待」
武井 貞治(国立国際医療研究センター 企画戦略局)

報告：「ARISE研究者グループについて」(国立国際医療研究センター)

2. 近年アジアで注目されている感染症

講演2：「国際的なエムポックスの流行とMCMの開発の動向について」
氏家 無限(国立国際医療研究センター 国際感染症センター)

講演3：「タイにおけるエムポックスの疫学と対応について2024年最新情報」
ティティポン・インヨン(保健省疾病管理局疫学部|タイ王国)

講演4：「アジアにおけるデング熱とアルボウイルス感染：
疾病管理における今後の課題と機会」
モイ・メンリン(東京大学大学院 医学系研究科)

講演5：「インドネシアにおけるデング熱の疫学と早期発見の重要性：
過去、現在、将来の展望」
ベティ・エルナワティ・デウィ(インドネシア大学 医学部 微生物学教室|インドネシア)

講演6：「次世代インフルエンザワクチンの開発」
長谷川 秀樹(国立感染症研究所 インフルエンザ・呼吸器系ウイルス研究センター)

総合討議

閉会

*会場でご参加の方は、フォーラム終了後に登壇者を交えた意見交換会の場を設けて
おります。ぜひご参加ください。

NCGM 国際感染症フォーラム事務局

〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター

臨床研究センター インターナショナルトライアル部内

Email: ncgm-iidf@piic-inc.com